

令和3年度 第1回福島市環境審議会 議事概要

と き 令和3年8月4日(水) 午後2時00分～午後4時00分

ところ 福島市役所7階 701会議室

出席者 委員12名

安倍眞知子委員、石高久美子委員、岩館敏明委員、各務竹康委員、鴨田美奈子委員、後藤忍委員、坂本眞理委員、須藤康子委員、高橋隆委員、中田俊彦委員、長渡真弓委員、三島昭二委員

事務局 職員12名 ※市職員出席者名簿のとおり

傍聴者 なし

司会：環境部次長

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ(代読)
4. 委員及び担当職員紹介
5. 会長、副会長互選

福島市環境審議会条例第五条に基づき、委員の互選により中田俊彦委員を会長に、須藤康子委員を副会長に選出。

6. 議 事(議長：中田会長)

(1) 福島市環境審議会の審議状況等について

事務局(環境課長)より説明

【資料1】 令和2年度福島市環境審議会の審議状況等について

○意見・質問

委 員 新計画のキックオフイベントに関して、当日のチラシなど紙ベースで資料提供願う。

事務局 今後、前年度の実績にかかる報告について、そうした資料を準備のうえ報告させていただく。

(2) 令和2年度の実績について

事務局(環境課長)より説明

【資料2】 令和2年度実績報告(環境施策)

【資料3】 令和2年度実績報告(環境保全)

【資料4】 令和2年度実績報告(環境放射線等の測定状況)

○意見・質問

委 員 (【資料2】1ページ) 令和3年2月に新たに計画を策定した旨、追記願う。

事務局 市民に公表する際に追記する。

委 員 (【資料2】3ページ) ビオトープの設置箇所を教えてほしい。

事務局 平野農村広場、茂田川、福島第三小学校、三河台小学校、渡利小学校、佐倉小学校、佐原小学校、鳥川小学校、平田小学校、水保小学校、宮畑遺跡となっている。青木小が廃校となり1つ減少した。

委 員 学校での利用実績は把握しているか。

- 事務局 各所管部署から設置箇所については報告を受けているが、活用方法については調査していない。
- 委員 せっかくいいものがあったても有効利用されていない事例がある。有効利用の方法を考えてほしい。
- 委員 学校現場としては、設備の経年劣化が進んでいるため予算措置があると助かる。
- 事務局 各所管部署と情報共有し、対応できるよう努力する。
- 委員 (【資料3】4ページ) 光化学オキシダント3地点において環境基準を達成できなかったとあるが、その数値の近年の傾向について教えてほしい。
- 事務局 昭和の時代に比べ改善が進んでいる。現在は年間で数十時間基準値を超えることがある。関東圏から流れてくるということであり、本市については良好な環境にある。例年並の数値である。
- 委員 (【資料3】12ページ) 水質汚濁が進んでいる印象を持っている。福島でももっと対応を考える必要があると思う。
- 事務局 市内一部河川において、地域的な特性により汚濁がみられる時期がある。地域住民に生活排水対策の理解を得ながら改善を進めている。水質の改善は数年では改善しないため、5年、10年といった長いスパンで改善すべく努力を続けている。
- 委員 一人一人の心構えで水質は改善できると思うので、水質改善について重要視してほしい。
- 委員 ごみ減量や水質について、国が基準を決めても市が守ろうとするとお金が要る。市民負担が増えるとなると市民感覚としては絶対ノーとなる。そのすり合わせが難しい。また国が出した目標に短期間で到達させることも難しいと思う。
- 事務局 河川それぞれ様々な性質がある。市内の河川の水質はおおむね良好であり、清流に囲まれた街だと思っていただいてよい。
- 委員 (【資料4】3ページ) 空間放射線量は平成23年6月からかなり減った。人体に全く問題のないことがわかるが、一般市民がこれを見た時にこの数字をどう解釈すればいいのか。他の地区と比較するとわかり易いのではないか。
- 委員 食べ物に関して、福島では検査を行っており安全なものであると自負している。他県のもの測ることはできない。
- 委員 県内ならば原発事故の影響が少ない南会津の方と比較することで十分だと思う。
- 議長 ほかに意見はあるか。
- 委員 市では「共創」をいう方針を打ち出している。行政だけではできないことが多い。市民や企業に対し行政から声をかけるとよい。そうすれば市民も参加しやすい。みんなで協力して目標を達成していければよい。
- 委員 (【資料4】3ページ) 情報を追加するとすれば、2つある。1つは原発事故前の数値「 $0.04 \mu\text{Sv/h}$ 」、もう一つは追加被曝線量年間1ミリシーベルトになるとされる「 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ 」であろう。要は事故前に比べればまだ汚染は続いていて、でも年間1ミリシーベルトには達し

ないところがほとんどであるというような、そういう解釈ができるような情報提供をしていただければと思う。

事務局 先日、福島大学附属中学校の生徒を対象に環境放射線に関する出前講座を行った。今後も機会をとらえて市民に説明していきたい。

委員 (【資料2】17 ページ) 棒グラフの表記について、年度間の間隔を見直すと直観的にわかりやすい。可能ならばグラフ中に数値を入れるとよい。また「市民生活に伴うもの」が増えており、強調してもよいのではないか。

また CO2 排出量削減に向け、将来の目標値とどのくらい乖離しているか伝わるようなグラフを意図して作ってはどうか。

(【資料2】16 ページ) CO2 削減目標について、昨年審議会で議論したが、直近に示された国や世界の目標はこれを上回る。今後計画の見直しが必要になるかもしれない。

(【資料3】20 ページ) 新幹線の騒音が大きいといつも感じている。沿線住民も多く、困っているのではないか。

事務局 グラフについては、より見やすいグラフに改善する。それ以外の今後見直しが必要となる部分については、しかるべきタイミングで委員の皆様と諮りながら検討していく必要があると考えている。

委員 カーボンニュートラルに関連して、温対法の改正に伴い、環境省本省から自治体に対する説明会が開催されたところだが、現段階でそれ以上の説明は難しい。施策がより具体的にできれば、可能な支援はしていきたい。

委員 これからは計画を10年温存するのではなく、都度見直す時代になりつつある。

委員 この一年弱で目まぐるしく状況が変わってきたと感じている。温対法の改正のほか、地域脱炭素ロードマップが策定され、脱炭素先行地域を全国で100箇所つくることになっている。現在、その取組に向けて、検討が進められているところであり、具体的な詳細が示されれば、その情報を共有させていただきたい。

(3) 第2次環境基本計画の評価(案)について

事務局(環境課長)より説明

【資料5】 第2次福島市環境基本計画の評価(案)

【資料6】 第2次福島市環境基本計画の評価(資料編)

○意見・質問

委員 (【資料5】) 前半のスライド部分に、目標値が書かれてないのが残念。見やすくわかりやすい資料とするため、ダッシュボード形式のスライドに変更してほしい。指標はすべて一覧として載せる。例としてドイツのベルテルスマン財団は各国のSDGsの評価をしており、カラーと矢印の組み合わせで、達成状況とトレンドがわかるよう表示している。文章を少なくしてアイコン・記号でわかるような形に修正してほしい。(【資料6】) 達成率の計算方法について、注釈のような形で記入してほしい。

事務局 ダッシュボード形式等の資料の見せ方については改善していく。ただ内容については新計画から引用して作成しており、変更となる部分はそれほど多くないと思う。資料6の達成率

の計算方法について注釈を追記する。計算方法は、目標値を 100%としてそれにどれだけ近づけたかで計算している。従前同様の計算方式だが、誤りがあれば訂正する。

事務局 計算ミスの部分もあるようですので、再度この部分の修正とダッシュボード形式の再作成を行い、後日本日の議事録とあわせて、委員の皆様へ送付をしてご確認をいただきたい。

委員 (【資料5】6ページ) 温室効果ガスの排出量について廃棄物部門は達成していないがこれに関する評価、例えば原因などについて触れられておらず、不自然な感じがする。

事務局 評価(案)については、新環境基本計画と脱炭素社会実現実行計画からの引用する形をとっており、委員の皆様にご審議いただいていない部分の評価について、事務局で作成することが適切なのか疑問があったためあえて記載をしなかった。委員の皆様の中でこうした評価がいいのではないかとのご意見があれば、ぜひこの場でご意見を賜り、本計画の評価としていきたい。

委員 ごみを削減するためには、本当に、頭をひねらないと駄目だと思う。ゴミの中に、やっぱり食べられる物が捨てられる事もたくさんある。もしできれば、「フードドライブ」という形もここに入れてはいかがか、提案したい。

委員 評価については、市としても新しい仕事である。紙芝居形式は進化。今の社会はこれに対する通信簿を求めている。5段階評価、AからEで評価するとか、二重マル、三角、バツでの評価。公的な事業に対して或いは大学の研究者の評価にも小数点2桁ぐらいまでの数字で、世界標準の数値目標が今どんどん入ってきている。本当は評価の基準を作る必要がある。最後はこの環境基本計画の10年間の評価を一言で。10年後はそれも求められるだろう。例えば6.8とかスコアリングも要求されてくるかもしれない。準備をしておくとなんか楽かもしれない。見本にするものが少ない段階の方が、福島市らしい評価軸ができていい。

(4) その他

委員 (【資料5】) 子供たちがWeb学習でこの資料にたどり着くこともあると思う。福島市のキャラクターの「ももりん」を掲載すると子供たちも親しみやすいのではないか。

事務局 データの見せ方についてのご指摘が多い。今後工夫をしながら改善したい。放射線の比較の入れ込み、震災直後の資料は比較対象を掲載していた。近年数値が安定してきて我々の意識が希薄になった点は反省すべき。また子供たちも見ることがあるため、この数値がどういうことを表しているか判断できるよう易しい資料づくりを行いたい。

5. 閉会

以上